

I 期 (一般)

受験番号		氏名	

令和2年度

武蔵野大学大学院 人間社会研究科 人間学専攻 臨床心理学コース 入学試験問題 (9月22日)

[臨床心理学]

数年後、公認心理師ないし臨床心理士の資格を取得し（もちろん両方取得してもよい）、心理の専門家として活動している自分の姿を想像してみたい。当然、クライアントを選び好みすることなどできないし、担当している部署とは直接関係がないように思えるクライアントが訪れることもあるし、多様な複数の問題を抱えているクライアントもいる。そうしたクライアントのすべてに独力で対応できる訳はなく、先達に助けを求めたり、適切と思える機関に紹介したりすることも必要だが、それにしても、自分なりにクライアントを見立てて、どう対応したらよいか考えねばならぬことに変わりはない。なにもわからぬまま悩みごとを聴くだけなら、専門家になる必要はないのである。

以下の1、2について思うところを記述せよ。

1 心理の専門家として、最低限使えるようにしておいた方がよい心理検査をすべて挙げ、テストバッテリーの観点から、その心理検査を挙げた理由を述べよ。

2 心理の専門家として、最低限使えるようにしておいた方がよい心理療法をすべて挙げ、その心理療法を挙げた理由を述べよ。